



顧問 近畿エリア部会
妹尾 和江

女子部の部屋

「サムライ女子インスペクター床下で樹木の根を発見」という見出しの記事がアメリカの地元新聞に掲載された。2018年シリコンバレーでの出来事。何を隠そうこの「サムライ女子」はアタシのこと。アメリカでは女性のインスペクターはめずらしく、かつ床下に潜ることはない、らしい。意外だった。

2014年からコロナの前まで、毎年渡米して本場アメリカでインスペクションの研修に参加。これは「ASHI」の元会長Frank Lesh氏の力添えでインスペクター仲間のご自宅の床下に潜らせて頂いた際の一コマ。その翌年、長嶋理事長が「ASHI」の年次大会に参加した時、会場でその映像が流されたという(汗)

アメリカのインスペクションと日本のインスペクションの違いは、一口でいうと「設備のアメリカ、構造の日本」。そしてアメリカでは消費者の方をみて、消費者の立場で「あなたが明日からこの家で住むのに困らないよう私が今から点検、説明します」・・・(ロスの“ネッド”インスペクターのインスペクション開始前の挨拶)と消費者目線で



インスペクションを実施する。短時間で実施され消費者との会話のキャッチボールのない?日本の「宅地建物取引業法上の建物状況調査」とは異なる。

報告書もわかりやすく、建物のメンテナンススケジュールとセルフメンテナンスの方法も描かれた冊子までついてくる。その冊子の冒頭には「あなたの家はあなたが守りなさい」と書かれている。これが、100年経っても変わらず住み続けることができ、むしろプレミアがついて価値が上がる「流通する既存(中古)住宅」の理由(わけ)である。

既存住宅流通におけるホームインスペクションの果たす役割は大きく、同時にNPO法人日本ホームインスペクターズ協会の真価が問われる時代が到来した。JSHI女子部会発足がその一助になればと願ってやまない。



NEXT ▶▶▶ No.2
久世 妙さん